



「国産食材の感動体験エピソード」コンテストを実施します！

グランプリ・準グランプリの2作品を映像作品化

国産食材にまつわる、楽しさや感動が伝わるエピソードをお寄せください

国産農林水産物の消費拡大を推進するフード・アクション・ニッポン推進本部事務局では「こくさんのおいしい話 ～国産食材の感動体験エピソード」コンテストを実施いたします。家族や友達、仲間、パートナーとの「国産食材」にまつわる、楽しさや感動が伝わるエピソードを募集し、グランプリ・準グランプリに選ばれた2作品を映像化し、広く配信する企画です。

エピソードの応募や映像作品の視聴を通じて、国産農林水産物・食品の魅力を再発見し、共感してもらうことで選ぶ、買う、食べるというアクションの喚起を図ります。

こくさんのおいしい話「国産食材の感動体験エピソード」コンテスト

募集期間：7月13日(月)～8月31日(月)

募集内容

国産農林水産物にまつわる感動体験エピソードを募集します。
全国各地の国産農林水産物のおいしさや良さなど、魅力が伝わってくる話や
生産者や料理人など、づくり手の想いが伝わってくるエピソードをお寄せください。
グランプリと準グランプリの2作品を映像化いたします。
その際、取材や映像作品へのご出演をお願いする可能性があります。

応募規定

- 日本語800字以内
- 国産農林水産物やその産地が登場するものとします。
- お一人さま何点でもご応募いただけます。
- ご自身の体験にもとづく内容に限らせていただきます。
- 様式は問いません。

応募方法

- A) 特設Webページから、体験談および必要事項フォーマットをダウンロードし
入力のうえ、応募専用アドレスへ送信いただくか、下記宛に郵送してください。
 - B) ご自身で準備した用紙にエピソードを記述いただき、以下の必要事項を記入した用紙を添付し
て下記宛に郵送してください。
①氏名 ②年齢 ③性別 ④職業 ⑤郵便番号・住所 ⑥電話番号 ⑦メールアドレス(お持ちの方のみ)
- 【特設Webページ】 <http://syokuryo.jp/kokusan-story/>
【応募専用アドレス】 kokusan-story@syokuryo.jp
【宛先】 〒105-7001 東京都港区東新橋1-8-1
フード・アクション・ニッポン推進本部事務局「こくさんのおいしい話」係
- ※ハガキ、FAXでの応募は受けつけておりません。

表彰

- グランプリ 1点 表彰+副賞(国産食材・食品セット)
 - 準グランプリ 1点 表彰+副賞(国産食材・食品セット)
- ※グランプリ・準グランプリの2作品を映像化し、動画閲覧サイトなどを通じて配信します。

審査員

特別審査員：木村祐一さん(タレント・放送作家・料理人)
マッキー牧元さん(タバアルキスト)、バンタンデザイン研究所、
農林水産省大臣官房食料安全保障課、フード・アクション・ニッポン推進本部事務局

主催

フード・アクション・ニッポン推進本部事務局

サポーター

オイシックス(株)、川島農園、西洋菓子 海援隊、(有)大自然会真生農業進行、(有)玉谷製麺所、(有)戸塚正商店、やまいもまつり(有)、(株)柚子りっ子 順不同

特別協力

バンタンデザイン研究所（学生による映像制作）

お問合せ

フード・アクション・ニッポン推進本部事務局
TEL：03-6217-2100 9:30～17:30（土日祝を除く）

個人情報について

ご応募の際にご提供いただいた個人情報は厳重に管理し、応募者への連絡、結果発表および表彰式での氏名の掲載、賞品の送付にのみ利用し、それ以外の目的では利用いたしません。

審査のポイント

- ① 読むと、食べてみたくなる・買ってみたくなる
- ② 読むと、おどろきや 新たな発見がある
- ③ ストーリーとしての面白さがある
- ④ 国産食材への感謝や、敬意、愛情が感じられる

例文

高知の小さなキャベツとの出会い

Y.W 男性

妻の実家から、毎月定期的に野菜が送られてくる。その中に、普段スーパーで見かけるキャベツよりも二回りほどこぶりなキャベツがあった。

食べて驚き！

あまりの甘みと、みずみずしさにメインのお肉を食べるのを忘れて、夢中でキャベツを食べてしまった。

このキャベツを作った方は、有機栽培の第一人者の渡邊さんという方だった。高知でも有機栽培の生産者向けの塾を開いたりしている方。渡邊さんのキャベツに出会って、野菜をメインのおかずにしたと初めて思うようになった。

その後、毎月送られてくるダンボールを、渡邊さんのキャベツが入っていないか、ドキドキしながら待っている。

祖父と台所

N.M 女性

私の祖父は、料理人です。

プロの、ではなく 商店街やスーパーで仕入れをして家族のために腕をふるう料理人。

「今日は何食べたい？」が、口癖になっている。

関東炊きをコトコトさせていたり、

慣れた手つきで、極細の千切りキャベツをつくっていたり、

アジを三枚におろして刺身にしていたり、

祖父といえば、台所に立っている姿ばかりが思い浮かぶ。

ときどき、明石の魚の棚まで遠出をして、

「蛸は夏が美味しいんやで」

「今日はシャコを買って帰らんか？」

一緒に買い物をしたこともあったなあ。

そんな祖父が先月、100歳の誕生日を迎えた。

今日も車椅子のまま台所に立ち、

祖母と晩ごはんの支度をしている。

何度もなんども砥石で研がれ、

刃渡りも幅も、ずいぶん小さくなった包丁と一緒に。

■ 「こくさんのおいしい話」に関するお問合せ ■

フード・アクション・ニッポン推進本部事務局

〒105-7001 東京都港区東新橋1-8-1 14階 TEL:03-6217-2100（受付時間 9:30～17:30）

「こくさんのおいしい話」特設Webページ <http://syokuryo.jp/kokusan-story/>

「フード・アクション・ニッポン」について詳しくはこちら ⇒ <http://syokuryo.jp/>